

# 2004.09.11-12 柴笛クラブ月例山行・甲斐駒ヶ岳・黒戸尾根

L: 田中 メンバー: 海輪・山村・佐々木・清水(会友)・篠原・「佐藤(三)腹痛のため棄権」

9月11日  
6時起床 三郎さん腹痛のため 7時まで様子を見る  
7時出発 駐車場の水は飲料にできないので、竹宇駒ヶ岳神社で調達途中の水場は、  
登山路変更のため給水できない。  
9時27分 横手との分岐に到着  
9時45分 崩壊前の分岐に到着(笹平)  
11時30分 刃渡  
13時14分 5丈の小屋  
14時48分 7丈の小屋に到着

9月12日  
5時55分 出発 途中から篠原別行動・8合目まで  
6時45分 8合目  
7時50分 甲斐駒ヶ岳・頂上  
8時20分 頂上出発  
9時32分 8合目  
11時27分 5丈の小屋  
14時05分 篠原下山  
14時25分 海輪さん下山  
15時30分 皆さん下山

11日 篠原(記)

夜中から、三郎さんの下腹が痛いとのことで、出発を7時まで見合す。

結石ではないかとのことで、痛みが取れないため、結局見合わせることにしました。

携帯と車のキーを渡して6人で入山する。

駐車場では、飲み水は調達できない。トイレの水は引用不可のため、飲み水は駒ヶ根神社で汲む。

神社のところにしている水は直接汲まず、少し下の塩ビのところからの水を汲む。

以前は登山道の途中で水場があったが、道の崩壊で登山道が変わったため途中で水を汲めなくなった。要注意ですね。

海輪さんが先頭で歩くが、結構早く・・・ついていけない。1時間おきに休みを取りながら3回目ぐらいで、行動用のビールを飲む、いや一体が上がらない。

刃渡りを過ぎると、梯子が出てくる、体が(---;)お・托い・・・やはや、ようやく5丈の小屋に到着、これからが大変・・・身重の体ではやっぱりきついですね。

なんだかんだいいながら、ようやく7丈の小屋に着く、他のパーティーが撮った松茸3本を田中さんが写真に収めて戻ってきた。

今回は、小屋に素泊まりとしたため、私たち6人だけで第二小屋を占有することができた。

他の人に気にすることもなく、快適な山小屋生活でした。早速、ピスターリ洋服を着替えてご満悦です。

ピスターリさん用意していただいた食事はとても美味しくみんなでお腹いっぱいでした。

小屋に着いてから、天気はどんどん回復し、夜は満天の星です。月もなくとても綺麗な星空でした。

12日 佐々木(記)

朝ごはんは昨日のおいしいすき焼きの残り汁で雑炊。そしてラーメン。完食!

小屋のドアを開けると、居たままでご来光を見ることがができる。なんて素晴らしい環境なのでしょう。

必要ない荷物を小屋に置き、軽い背中でいざ出発!

小屋からすぐ、はしごを登る。(昨日の夕方、私はここに座って、エマニエル夫人ポーズをとりました。なぜ、爆笑が起こったのでしょうか?笑)テン場のあたりで、膝の具合が悪いしのさんが、マイペースで登るとのこと、お別れする。しのさんなら、一人でも大丈夫。

今日の天気は最高。雲ひとつない。しかし、道はいよいよ厳しくなってくる。はしごや岩場が続く。でも、海輪さんと美知さんの的確なアドバイスで、無事に越えることができた。

「昨日のはしごだけで、わたしびびっていたんですよ。今日は、あれ以上なんですよ?」

と言っていた清水さん。落ち着いてしっかり登っていている。もう一、謙遜しちゃって!

8合目に到着!ご来光を拝む場所になっているだけあって、眺めが大変素晴らしい。わたしはここから見る甲斐駒の美しさに感動してしまった。花崗岩の白さに、ほんのり色づいてきた木々の色とのコントラスト。そそり立つ、頂上の厳しく美しい姿。美知さんは、岸壁をみて、ルートを探している。

「ここ、登れるわよ。」

と、美知さんが、たどったルートを教えてくれるが、わ、私には無理一。でも、登ったらとても快適と思われる風景だ。

8合目を越えると、ますます岩場が増えてくる。そして、祠や石碑、奉納した剣の数も増えてくる。いくつもの岩の

てっぺんに、剣がさしてある。この岩を登って、あの剣をさしたのね。昔の人は、岩登りがほんとにうまかった!修行場になっていたそうだから、行者さんたちが奉納したのかしら。皆で、感心することしきり。

もう少しだね、と言いながら登っていく。すると、ぼんっという感じで頂上に到着!まずは、祠に到着のお礼をする。海輪さんは、ビスターリ服にお着替え。

絶好調の天気で、南アルプスが中岳まで完璧に見える。登ってくる途中で、北アルプスも見えた。槍はもちろん、鹿島槍も!海輪さんに、

「佐々木さんの今年の夏が、全部みえるよ。今日が夏の集大成だね。いい夏だったねえ。」

と云ってくださった。本当にそう。みんなで登っている美しい甲斐駒から、思い出の山々を見渡す感動。言葉に言い表せないとは、この事だ。

ビスターリ服を着た海輪さんを囲んで、記念写真。ビスターリ服、周囲の風景と全く違和感がない。かえって登山服よりも、風景にぴったりしている。海輪さんにも似合っているし。頂上からニューヨークの亀井さんへ、お礼を言う。しばらく頂上を楽しんだ後、下山にかかる。

下山のほうか、岩場やはしごに緊張させられる。美知さん、海輪さん、アドバイスありがとう!

途中で原さんに遭遇!今朝、東京を出てきてのぼってきた原さん。さすがの健脚!やっぱり追いつかれたねえ、と皆で笑いあう。きっと、下る途中でまた、追い越されるはず。原さん、ドラ焼き、ありがとうございます。ほんとにおいしいドラ焼きだった。包み紙、捨てちゃった。残念……。原さんから、駐車場のさぶろーさんも、途中であったのさんも、元気だったと教えてもらう。

下るのがなんかもったいねと、8合目で休憩。なごり惜しみながら甲斐駒を眺める。おととしの春は、たっぷり残っている残雪のラッセルと雨で、5合目までであきらめた。今回来ることができた頂上。とても嬉しい!

小屋に戻り、荷物を片付け掃除をして、出発。7丈の小屋の人は、とても親切で仕事熱心。前から海輪さんが、とてもほめていたけれど、そのとおりだった。食事つきで小屋に泊まった人たちが、食事がとても豪華でおいしかったといていた。小屋はもちろん、その周囲も、そしてテン場もとても綺麗に清掃してくださっている。テン場を熊手やトンボで整備してくれているのには、頭が下がる思いがした。小屋番のお兄さん、これからも登山客をよろしくお願いします。お礼が遅れましたが、おととしの春、ラッセルのとき、お兄さんの下山の踏み跡がとてもありがたかったです。あれがなかったら、もっと道の確認をしなくてはならず、時間がかかってしまったはずです。(でも、お兄さんは下山で、しかも足がとても長かったので……。自分の足の短さをしみじみと感じさせられました。)

五合目を過ぎてしばらく行ったところで、やっぱり原さんご夫婦に追い越された。再び、笑い。本当に健脚なんだからー。駐車場で再会を約束してわかる。

それにしても、さすがは黒戸尾根。

長い……。春は雪だったし、五合目までだったしで、長いとは感じなかったけれど、今回は、長い。

長い長い下りを終えて、神社にお礼。おみやげにおいしい神社の水をいただく。

駐車場で原さんご夫婦、元気なさぶろーさん、しのさんに

再会。そして、ビール!わたしはとてもおながすいていて、原さんからまた、おつまみをしっかりいただいてしまった。重ね重ね、本当にごちそうさまでした。

久々にみんなと山に行き、とても楽しかった!柴笛の間は本当にいいなあ。またみんなで、ワイワイ言いながら山に行きたい!

#### 追記

竹宇駒ヶ岳神社、あちこちの祠に摩利支天という神様がまつられていました。海輪さんと、どんな神様なのだろうと話していたのです。

ちょっと調べてみました。

誰も見ることも捕らえることもなく、どのような難からもまぬがれるという陽炎の神格した神が摩利支天。天女の姿で表わされることもあるが、通常は6本もしくは8本の腕に、金剛杵や針・矢などの武器を持ち、猪の上に立っている姿であることが多い。猪に乗っているのは、本性がつかみどころのない陽炎である摩利支天が、太陽の中に住む日天の前を、目にも止まらぬ速さで走ることになんだものである。摩利支天がその力を加勢すれば、敵に覺られずに相手を襲い、また自分は決して傷つくことはない。ということで、古来より武士が尊崇した。楠正成も、甲冑の中に摩利支天の像をしのばせていたそうである。

ご利益は、災難、盗難、水難、火難からの守護である。